

令和5年度 多摩市文化芸術ビジョン検討委員会 第5回 要点録

開催日時・場所	令和5年4月26日(水) 18:00~20:20 多摩市役所301会議室	
参加委員	参加委員6名 学識経験者：伊藤裕夫氏 市民委員：石坂氏、岩佐氏、柴田氏、新倉氏、西村氏	
出席職員	くらしと文化部長、文化・生涯学習推進課長、事務局3名	
主な内容	開会	資料の確認
	次第1	前回の振り返り
	次第2	(仮称)第1期多摩市文化芸術将来ビジョンについて
	次第3	将来ビジョンの名称について
	次第4	第6回委員会について
議題	主な意見(●事務局、◎委員長、○委員)	
次第1 前回の振り返り	<p>①前回の要点録について確認。委員会として承認した。</p> <p>②前回委員会の内容の振り返りと傍聴の方からのアンケート意見紹介</p> <p>◎ 傍聴の方からは「上から目線ではなく市民の声を聴いてほしい」との意見があった。「ビジョン」は抽象的で、内容に誤解を持つ方もいる。委員の方や事務局は質問があれば丁寧に答えてほしい。</p>	
次第2 (仮称)第1期多摩市文化芸術将来ビジョンについて	<p>●資料22 (仮称)第1期多摩市文化芸術ビジョンを説明</p> <p>・「はじめに」については、前回は1として章立てしていたが、2及び3をまとめ、目次の前に移動させた。</p> <p>≪「はじめに」について≫</p> <p>◎ 「はじめに」について役所的だ、もっと文化芸術の力を強調していいのではという意見があり、この形にした。</p> <p>○ ビジョンは他の市も作っているが、こんなに長文になるのか。</p> <p>◎ ビジョンだけを冊子にまとめることは他の市では殆どない。ビジョンを共有しようという思いの表れ、そういう意味では長くなる。</p> <p>○ 「2035」、「将来」という文字が書いてあり、10年後も「将来」という文字が残ると違和感があると感じた。市民に認知されるのはわかるが、この冊子はいつどこで公表するか教えて欲しい。</p> <p>● 6月に庁内決定、7月公表予定。基本的には計画の前段階なので、ビジョンはHPなどでデータ公開する。ただ、あくまで計画の一部分の扱いであり、これそのものを市民に周知するというより、ビジョンで示す姿にするための施策を盛り込んだ計画として周知する。</p> <p>◎ 後ほど名称を決める際に「将来」等が入るのか確認したい。ビジョンについては、冊子としてほしい人には渡すが、積極的に配布するものではない。</p> <p>● 検討委員会を立ち上げているため、成果物として冊子の形で行政資料として公表するが、最終的には計画とセットで見てもらいたい。</p>	

- ◎ 「はじめに」について他に意見はあるか。
 - 4段落の文章は無くてもいいのでは。
 - 「人々にとって…」の理由が「リモートでの鑑賞の発達…」という部分、その要素もあるが、必ずしもそれだけが理由ではない。
 - ◎ 「はじめに」について、細かな直しや言い回しについての意見があれば事務局に連絡してもらい、大筋で合意という事であれば、次に進めたい。
- ≪1・2 ページについて≫
- 「1 策定の経緯」については、パルテノン多摩の大規模改修工事に関連して「管理運営計画策定委員会」がたちあがり、その委員会提言を受け、文化条例策定に至った経緯を記載した。
 - 「2 将来ビジョンと計画の関係性」については、範囲が分かりづらいとのご意見も多く挙がっている中で、文化芸術基本法の表をそのまま使うのではなく、文化芸術基本法で示す「分野」のみを記載することにとどめ、「内容」については、人それぞれ感じ方、考え方が違うので明示することを控えた。
 - 生活文化とはどういうことを指すのか。
 - ◎ お茶、お花、料理等を指す。
 - 「多摩市は文化芸術で・・・あってほしいか（状態）」という書き方が上から目線なのではないか。街はわかるが。
 - ◎ 「定めます」という表現も押しつけがましい。意見はあるか。
 - 市がビジョンを策定し、計画を作り推進していく。逆にそれぐらいの言葉の方が決意があっているのではないか。
 - ◎ 個人的には、条例等は市が作っていくものだが、ビジョンは共有していくものと考えている。事務局と相談し弱めの表現に変えていく。その他の意見はあるか。
 - 《将来ビジョンについて》の「街と市民のありたい姿」表現は変えなくていいのか。
 - 市民のありたい姿を決められたくない。自分で決めたい。街だけではダメなのか。
 - 街のイメージを決めることで、そこに共感すれば市民がなぞらえていくのではないか。
 - 事務局としても市民目線から見てどうなのかを表した。表現は事務局で手直ししていきたい。

◎ 市民と街の関係性を並列でない形で市民の目線からみた表現にしてい
く。

《3 ページについて》

●まず、これまであった「大事な視点」については、「4 具体的なイメージ
のなかで例示を行い、詳細に説明を行うため削除した。また、「目指すべき
姿」については、「気がついたら、身近で日常的に多様な文化芸術に親しん
でいる市民のすそ野が広がっている」に変更した。それに合わせ「解説」の
内容も変更している。なお、「すそ野が広がっている」とは、ある分野や領
域において、範囲が広がっている（多様性や拡大が起きている）ことを表
し、「増えている」とは、数値的な増加があることを表すという違いがある。
「すそ野が広がっている」には、「増えている」ことを含むこともある。

◎ 「目指すべき姿」について、形容詞を減らしたことですっきりとした。す
そ野についてはピラミッド的な意味ではないので戻した。

○ 市民という言葉が入るとすそ野が広がるという形になるので、「多様な
文化芸術に日常的に親しむくらしがまち全体に広がっている」はどうか。
そうすると解説はいらぬ。

◎ 確かにくらしが主語の方がすっきりしている。

○ くらしという言葉を使うことで文化芸術が別世界ではなく、日々のくらし
の中にあるものと見えやすくなる。

◎ 細かい意見や追加があれば1週間以内にほしい。次回はビジョンを承認
という形に持っていきたい。

○ 解説を活かすのであれば、「さまざまな～交流する事」
部分が「くらし」の部分にしみこむ的な言葉をいれるといいのではないか。

《4・5 ページについて》

●前回までは、動詞のみを記載していたが、目指すべき姿が分かりやすいよう
に修飾語を追加した。修飾語をつけることで、より具体的なタイトルにした。

◎ 2035の年数を入れるとやや硬い。「市民の視点から見た10年後の姿」
ぐらいではどうか。

○ 「無意識に」が引っ掛かる。「無意識に」文化芸術に親しむとはどうい
うことなのか。芸術に触れるときは、自発的に選ぶものである。日頃から触
れるのと無意識とは違う。

○ 意図せずに触れるという意味だと思う。

○ 街の中に文化芸術があふれているという事もあるだろうが、無意識とは
少しちがう。「自発的に参加する」と書いてあるのと矛盾する。

◎ 意図しなくてもあふれているのはいいことだが、トップに入ってくるとそこがメインになってくる。「無意識に」という表現をもう少し後ろに登場させてはどうか。また無意識という言葉がいいのか。文化芸術に関心がある人だけでなく、文化芸術に親しんでない人でも関わる機会がある、という内容をいれたい。結果として多くの市民が、文化芸術に深い関心がなくても、徐々に触れていき、関心を持つようになるといい。

○ 「無意識に」の解説の最初の2行を文末に持って行ってはどうか。

◎ 「自然に触れられる」については市民とプロは並列にした。プロを先に出すと抵抗がある人もいるので。

○ 街の姿、市民の姿だけを見ると、一般的な人たちのことしか書かれていない。文化・芸術はお金を生み出さなければ続かない。そこで大切なのは企業やそれを欲しがっている人をつなぐもの、それをビジョンに入れたほうがいいのではないだろうか。

◎ 重要な指摘である。

○ 多摩市には特定の世代で芸術家が多いと感じている。レッスンができるような家の作りなどもある。プロの方々がここに住むとインスピレーションが湧いてくるような土壌があるといい。街づくりの段階からそこに価値を置いて施策に繋げて欲しい。

○ 前提として、目指すべきイメージは享受する視点である。プロをサポートする視点がないのは最初から入れてないのか、それとも結果としてそうなったのか。市民の姿のところに活動している人を支援するという視点がない。

◎ プロが育つためには多摩市の地域だけでは無理である。都など広いところでの文化振興ですべきである。住宅都市という市民が暮らしている生活都市では、市民文化政策が必要になってくる。そういう意味でそこを軸にしたビジョンにならざるを得ない。市では、市民目線に重点を置いている。

● すそ野が広がるとは、芸術に縁がない人たちの層を育て、お金を払って芸術を見に行く人たちを育てる、そういう意味も込めている。人々が積極的にプロのチケットを買っていくような土壌を作り上げることがプロのアーティストにとって一番大切だと思っている。プロへの直接的な支援は計画の中に出てくると考える。

◎ 例えば調布では調布国際音楽祭など市の規模を超えたこともやっている。多摩市もパルテノンを作った時はそういう意気込みがあったのではないか。パルテノンの改修は生活者を軸にしたもの、市民の生活に寄り添った文化施設に変えていこうという計画だったと聞いている。計画の中には1つくらいは個性になる柱を入れたい気もするが、基調は市民文化に根差したものになるのではないか。その際市民文化とはアマチュアとして楽しむだけでなく、プロの公演を鑑賞することなのか、計画の中で具体的に作り上げていく必要がある。そのためにもビジョンが基本的な考え方を保証していく必要がある。

● 市内のプロのアーティストにサポートができていない。プロの情報発信をしていくお手伝いはすべき。もう一点、アマチュア、市民楽団の催しは安価で見られる。その発信もできていない。手軽に見られることを発信していく。鑑賞者が育ち、更にもっとクオリティの高いものをというステップを踏んでいくことが大切。

◎ 「目指すべき姿」は街が先で、市民が後の方がいいのではないだろうか。

○ プロを見て、私もこうなりたい、という思いが大切。子供たちがプロのようになりたいと思う、そのようなビジョンが少しでも入ればいい。子供が本物に触れる機会を持つのは大切。

○ 文化芸術の土台を作るのはそれしかない。思春期の頃に本物に触れ関心を持ってもらうことが大切。

《6 ページ以降について》

● 「市民の姿からの視点」と同じように修飾語をつけることで、より具体的なタイトルとした。

○ 街が先に来るべきではないか。

◎ 街が軸になり、市民がそれに触れることで豊かな状況になる。最初は市民主体で市民が先でいいかと思ったが、その点では悩ましい。

○ 街のあり方の「様々な支援がある」にはプロのサポートの支援の視点が欠けている。「プロのアーティストを支援する町」と明記すべきではないか。「プロのアーティストの住環境、レッスン場、発表の場やスタッフを市が援助」等お金をかけるようなニュアンスを入れるのは難しいのか。

◎ 計画として取り上げる場合、多摩市はプロのアーティストにとって重要な活動拠点になりうる。収入という面では多摩市の規模では公演場所としては難しいが、稽古場の充実等、住宅を半額にする等の支援は可能である。

○ 最後の「様々な支援」の部分は個人や団体としか書かれてない。行政は絡まなくていいのか。

○ そもそも街の姿に行政が入ってくるのはそぐわないのか。

○ 街の姿と市民と行政の立ち位置がわからない。

● 街の姿、市民の姿がこうなるためには何が必要なのか、その具体的な計画の段階で行政が出てくる。目指す姿になるために具体的な計画があり、そこに行政がやることが多く書かれる。その前段階としてビジョンがある。

○ 「活かせる機会がある」のところ市として宣伝をする等を入れてもらえば、プロとして支援になる。そのほうがいいのではないだろうか。

	<p>○ 一市民として、ビジョンは多摩市が出しているから多摩市がやる物と思ってしまう。勝手に10年後の姿を決めてそれに対して市民は行政のあるべき姿がないのは不思議に思うのではないかな。</p> <p>● 例えば「ビジョン：プロのアーティストに選ばれる町」としたら、「計画：そのために行政は必要な情報発信をする」というように、ビジョンと計画は表裏一体の関係になっている。</p> <p>● この冊子が独り歩きすると誤解を招きかねない。ビジョンは計画とセットであるべきで、ビジョンはあくまであるべきまちの姿を描いている。行政、財団、市民、プロのアーティスト、市民団体、文化を担うそれぞれが、誰がどうするのかは計画で具体的に述べて周知していく。</p> <p>◎ 市民と街と分ける必要があるのか。将来ビジョンが書かれている具体的なイメージを8本ほど入れて、市民・街と分けられないほうが良いのではないかな。</p> <p>● 街の姿というニュアンスの中で、市民と街を1本化した形で、市民と町の重複している部分は再整理する。委員長、副委員長と協議して、皆さんに展開していく。</p> <p>○ まず関心を持った後親しむので、「無意識に親しんでいる」の前に「出会う機会がある」を置いたほうが良いのではないかな。</p> <p>◎ 今出た部分を再整理していく。その他街については、活性化等の記述もあったほうが良い。もう少し明確に、作り直してく。お時間をいただきたい。</p> <p>《8ページについて》 「委員のコメント」について、誰が、何についてコメントし、記載するかが不明確のため削除した。また修正点を説明。</p>
<p>次第3 将来ビジョンの名称について</p>	<p>◎ 名称が次第や表題で異なるので統一する。またビジョンは10年後の姿というよりは目指す姿である。計画だと第一期、二期とする場合もあるかどうか。</p> <p>○ ビジョンは更新していくものなのか。</p> <p>◎ 多くは計画の中にビジョンが書かれている。その場合第一期から第二期になる際に変えるかどうかの議論になることがある。基本的にはまだ達成されていない場合など、息が長いものとして、変えるとしても一部のことが多い。必要な場合は変えることもあるが普通は第一期から第二期で変えない。</p> <p>○ 2035という文字をなくすと、具体的にいつまでになるのか。10年後という意味になるのか。</p> <p>◎ 10年後を目途に達成するものと考えている。絵に描いた餅にしないよう、大抵計画は10年後を目途に考える。</p>

	<p>○ 3に「べき」が入っているが達成できる自信がない。</p> <p>◎ 「べき」は入れずに「目指す姿」でいいのではないか。</p> <p>○ ビジョンだけが独立しているところは他にないのか。</p> <p>◎ 神戸などでは「ビジョン」という名で数十ページぐらいの基本計画が策定されているがアクション計画までではない。マスタープランなど他の名前を使っている市はある。</p> <p>● ビジョンを作り始めた際、いつを目指すのかと問われた際、10年後と答えた。作っている中で、10年後100パーセント達成できるかと言われれば難しく、達成年はなじまない内容になっている。また指標がないため、その点でも達成年を入れるのはなじまない。ビジョンを元に計画を作った際、今後は世論調査などで達成度を測り、さらに10年後は目指す指標を増やしていくという形が考えられる。</p> <p>◎ 計画の場合通常はビジョンに基づいて目標を定め、その実現に向けて年次計画を作っていくのが通例である。達成値があって次にビジョンという形ではない。また達成したからビジョンを変えていくではなく、時代が変わって変えていくことはある。名称は「多摩市文化芸術ビジョン」でいきたいと思う。ビジョンの具体的なところは再整理していく。</p>
<p>次第4 第6回委員会について</p>	<p>日時：令和5年5月31日（水）18時～20時、301会議室</p>